



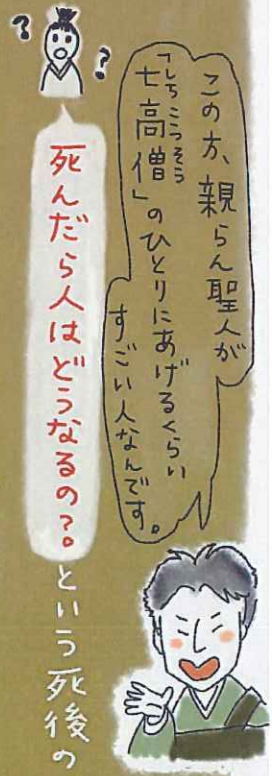
「神曲」のような有名な本とかあったっけ...?」
 「しょうか?」
 「地獄ってどんなところなんでしょう?」



往生要集は 極楽浄土へのガイドブック



千年も前の平安中期、
恵心僧都源信という
 お坊さんが書いた本です。



「死んだら人はどうなるの?」という死後の世界を生々しく書き、人々に衝撃を与えました。
 地獄のことだけでなく、極楽へ往生する方法も教えてくれる、まさにガイドブックのようなものだったのです!」

この往生要集の内容を分かりやすく伝えるために、お坊さん達が掛け軸などの絵を使った「絵解き」というお説法で当時の人々に広く知られていきました。



芥川龍之介の「蜘蛛の糸」でもお馴染みの「こんなイメージ」
「極楽が上にあって地獄はその下にある」という位置関係も、そもそもは往生要集を一枚の絵で表現した構図が始まりだったんですね。

